
ギルド

プライド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ギルド

【コード】

N0371F

【作者名】

プライド

【あらすじ】

これからギルドチームと呼ばれる仕事人たちの世界へお連れします！

登場人物

登場人物

シユキオン・ケアノス

ギリシャ出身の17歳の青年

海の聖地

「オケアノス」の神の1人。

人間の姿の時は魔法・弓や剣が得意分野。

ギルドチーム

「オールシャン」

パーティー

プラチナ・バーン

アイル・テール

プラチナ・バーン

中国出身の16歳の少年

イタリアと中国のハーフでイタリアの姓を使っている。

武術と剣術が得意分野で直接攻撃が得意。

ギルドチーム

「オールシャン」

パーティー

シユキオン・ケアノス

アイル・テール

アイル・テール

アイルランド出身の14歳の少年

無口な性格だがシユキオンの前だととてもしゃべる。 あこがれている人物はシユキオンとクラウン。

氷と水の魔法が得意分野。

ギルドチーム

「オールシャン」

パーティー

シユキオン・ケアノス

プラチナ・バーン

クラウン・ダウリス

イタリア出身の17歳の青年

右目の眼帯がチャームポイント シユキオンの昔からの親友。

闇の魔法と光の魔法を得意とする

ギルドチーム

「ダークネス」
ロビン・パエリヤ

パーティー
シルバ・デスキス
ロビン・パエリヤ

クラウンの従兄弟

フランス出身の15歳の少年
少しおっちょこちょいな性格。

火の魔法が得意分野。

ギルドチーム

「ダークネス」

パーティー

クラウン・ダウリス

シルバ・デスキス

シルバ・デスキス

ポーランド出身の15歳の少年

とても物知り。

本をよく読んでいる。

チーム内のサポーターとしている回復系の魔法が得意。

他にもいろいろいなギルドチームが

出てくるよ！

これからよろしくね！？

プロローグ〔ギルドの掟〕

ギルドチーム
の集まりだ。

それは世界中から集まった仕事人

彼らは森や洞窟、海や火山など世界中の依頼をこなしていくために各地に赴いている。

〔ギルドの掟〕

- 一、必ず3人でチームを組むこと
- 一、脱走した場合は処分とする
- 一、依頼成功書は必ず提出すること
- 一、依頼以外のことに関わらないこと
- 一、緊急事態の時はギルドリーダーの指示に従うこと

よい

一、ギルドチーム同士協力しても

〔依頼を行う時の注意〕

一、他の人に危害を加えないこと

一、依頼以外のこととは緊急事態の時以外は触れないこと

一、チームの1人がかけた時は依頼を実行しないこと

一、必ず3人一緒に行動すること。

しかし、分担することは許される

〔依頼の種類〕

大まかに3種類の依頼を表示する

主に危険性の高い依頼

- ・魔法系の依頼
- ・問題系の依頼

主に危険性低い依頼だが知能力が高い

攻撃系の依頼

主に危険性の高低がある依頼

剣

術や武術の分野が主である

プロローグ「ギルドの掟」(後書き)

次回から物語のはじまりです！

第一章 オケアノス神の完成 記録1（前書き）

はじめはギリシア神話の世界へ

第一章 オケアノス神の完成 記録1

「これで終わり！」

「ご苦労様ですプラチナ」

「早く帰ろう」

「その前に書類を作成しないと」

シユキオンはカバンから一枚の書

類を取り出した

「えー面倒だよ」

プラチナは近くにあった岩の上に座った

「いけませんよ掟なんですから」

シユキオンは書き始めた。

「午後1：46 サンドラ周辺に

て依頼No.42 サンドラ周辺の奇怪現象を成功と表示する

〔原因〕地下洞窟に生息する魔物によるもの

〔解決法〕魔物の退治 ギルドチーム オールシャン っと」

シユキオンは書き上がった書

類をながめた

「終わったの？」

プラチナは近くにあった花をつつきながら言った

「終わりましたよ」

「じゃあ戻ろう」

シユキオンたちはギルド本部へと向かった

「ねえ〜ここからどのくらい

でつくの」

「んー…早くて2日くらいで

すかね」

「2日もー！」

プラチナは大げさに驚いた

「私が入った頃は1ヶ月経つ

ても帰ってこれないことがありましたよ（笑）」

シユキオンは爽やかに笑った

「顔が笑ってないよ」

アイルはボソツと言った

「…」

「とりあえず早くいこうよ！」

そして数時間後…

「ねえ、このあたり寒くな

い？」

「このあたりは海の神オケアノスがおさめる神殿がありますしね」

「オケアノス？」

「オケアノスとは、ギリシャ神話

にでてくる海の神のことです。私の故郷でもあります」

「へエー」

「わかってませんね」

「うん、さっぱり」
プラチナは否定することなく言った

「あそこの神殿がそうですね」

シユキオンを古い石造り白い神殿

を指した

「ねえ行ってみようよ！」

プラチナはシユキオンの服を引っ張った

「掟破り」

アイルはフツと笑いながら言った

「げっ、そうだった」

「大丈夫ですよ私がギルド長にある理由で許可をとってますから」

「本当に！」

プラチナは目をキラキラさせてシ

ユキオンを見た

「え、ええ」

「じゃあ早くいこうよ」

3人は神殿に向かった

「うわーひろーい」
ね

「プラチナ荒らさないください」
「はーい」

「そうしないと…私がひどい目に…」

「ねえこの像は？」

「この像はオケアノス神ですよ」

「へえー」

すると像が光り輝いて1人の女性

が現れた

「久しぶり…シユキオン」

「どうも」

女性はシユキオンに抱きついた

「私のために帰って来たのね…デクレオスは一緒じゃないのね」

「デクレオス…懐かしい名前ですね。私もかれこれ数十年会ってません」
「そう」

「シユキオンその人誰？」

「この人は友人の…」

すると女性はシユキオンを引っ込ませた

「もったいぶらないの！私はオケアノス神の1人のノアルよろしくね」
「僕はプラチナ」

「アイル」

「彼らは私の仕事仲間です」

「仕事…じゃあひとつお願いしようかしら」

「別にいいですよ」

「じゃあデクレオスとアシルを捜

「トリアノロニドをトキヤト」

トキヤト

第一章 オケアノス神の完成 記録2

「あの…今なんと」 「だからデクレオスとアシルを捜してここに連れてきてちょうだい」

「一体何の目的で」 「聞きたい？」

「もちろん目的を知らないと仕事になりませんから」

「それは…」 「…」

「オケアノス神の全員で食事がしたいからよ」

ノアルの言葉に3人は啞然とした 「たつたそれだけのためですか

！？」 「シユキオン目的教えたのだ

から早く行ってきてね」 「…全く神使いが荒いですね」

シユキオンは小さくため息をした

「よろしくお願いね」 ノアルはそう言うと言えなくなってしまっ

た 「2人ともとりあえず本部に戻り

ましょう」 そしてシユキオンたちは再び本部

に向かった

「や・やっとなつた」 「では、私はギルド長のところに

行ってきます」 「じゃあ僕はオケアノスについて

調べる」 「オレも行く」

「アイル早く行こう！」 プラチナはアイルの手を引っ張っ

て書庫へ行った シユキオンはギルド長のところへ

行った

「失礼しますギルド長少しお願いがございます」

すると一人の青年がやってきた 「やあ！君が来るのが待ち遠しく

てうずうずしてたところだよ」 「それはどうも」

「そんなにかしこまらなくていいよ、同い年なんだから」

「いいえ、私の癖です」 「そうだったね。ところでお願い

つて？」 「私の弟達の行方をご存知かと」

「わかった！しばらくしたらまた来て」

「わかりました、では」 シュキオンは部屋をあとにした

「まったくあの人はたいしたものだ」

シュキオンはブツブツ思っていたギルド長は最年少で昇進した人だ彼の名はクロム・オクスフォードシュキオンの昔のギルドチーム仲間だった

そのころプラチナ達は…

「ねえ、アイルはシュキオンのことどう思ってるの？」

プラチナは本を探しながら言う

「とても尊敬してる」

「そうなんだ…あつ！この本詳しく

く載ってるみたいだ」

プラチナは一冊の本を持って降り

てきた

「えつと…あつたあつた！オケア

ノス神とは、ギリシア神話の海の神で最高神ゼウスの裏切り行為によつて魂を分けられてしまった…んー難しいな」

「シュキオンさんに直接聞けば」

「その方が速そう」 プラチナとアイルはギルド長室に

向かった

「再び失礼します」

シュキオンはしばらくしてギルド

長室を訪ねた

「遅いよ…もうとつくに場所が分

かったのに」

「それでどこにいるのですか？」

「えつとデクレオスはミケナイでアシルはトロイアにいるよ」

「本当に助かりました」 「いいよ、昔からのつきあいだから、神も大変だね特に君たちの神様は」

「そうですね、特に本体のノアルですね」

「彼も一緒だよ」 シュキオンは笑顔を返して部屋を

出た

「シュキオンわかった」 プラチナがシュキオンに飛びつい

た 「ええ、これから出発です」

「うん」 そしてシュキオンの兄弟捜しの旅

が始まった

NEXT

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0371f/>

ギルド

2010年10月9日15時14分発行